

まちの話題

▶「まだんげき？」と意味も分からぬまま、空の穏やかな晴れた日に一家で新浜に出かけた。真っ平らな原っぱに着くと、すでにキガンさんがマダン劇について話している。すぐ横の「共同キッチン」でも煮炊き用ストーブの煙突から煙が立ち上っていた。2か所で何がシンクロしながら始まることだった▶内容については割愛するが、僕が参加して目の当たりにしたこの劇の魅力は「参加者の意識の変容」。受けた印象を挙げると、①ほとんど演劇の未経験者で構成される②配役とセリフ・振付けが即興的に決まる③手ぶらの普段着に1枚のお面、1枚の布などでシンプルに装う…等。素人の自分に役が務まるの？という不安がよぎりつつも、キガンさんの指導でテンポ良く進行し、いつ配役が降ってくるか分からない緊張感もあった。演者かもしれないし、同時に観客でもあり、舞台を見守った。自然と、今演じている人のセリフや動作に注意深くなり、その場で学習<模倣>が始まっていた。周りも見てみると、2度目はこなれてきて、より役になりきっていった。いつの間にか全体が一つにまとまって、見事安倍トラを追い出すことが出来たのだ▶劇を作り上げていく過程そのものが、個性を持ち寄って築き上げる社会のあるべき姿と重なって見えた。劇に加わることは、部分的に政治参加と似た側面があるのかもしれない。政治に正面から取りつき難くてもこれなら参加しやすくなる人たちが増えるかもしれない▶終わってみれば、始め何もなかった原っぱの草の上に生き生きとした舞台の輪郭と劇の余韻が残っていた。さあ次はみなさんが参加しましょう！（たまのたいへい）



みんなで作ろう！
野外実験劇場 参加型芝居
「ステップを踏もう！」
「月のはじまり」
「二日後マルシエ」

2016 sat
9

プレイベント vol.2
「やるうーやるうーやるうー」 ステップ！
舞臺芸術文化会館さくらシンボル広場
https://www.facebook.com/kenminshuikaishiga/

あまいろだより



あまいろだより(天色便り)
あまいろ探偵団、走る！手づくり市民メディア
第26号 特集:三十八男、ギターで語る。
発行日/2016年3月15日
編集/あまいろ探偵団
(綾牧生・岸田知之・北岡七夏・
きむきがん・中野和子・藤井朋子)
発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖
~大切なことを他人任せにしない。
自分たちで力をあわせてつくる~
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
info@aobiwako.org http://aobiwako.shiga-saku.net/

あまいろだより
AMAIRO CHANNEL
あまいろ
チャンネル

http://www.aobiwako.org/amairo-channel/

表紙タイトル/岸田知之
きむきがん
びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用
しています(びわ湖の森の製材材活用)

三十八男、
ギターで語る。

天色便り
あまいろ探偵団、走る！
手づくり市民メディア
第26号 2016.3.15

暮らしのコラム

はじめましての方もそうでない方もみなさまお久しぶりで〜す!!ちやたと申します☆今回はステキなご縁で、あまいろの暮らしコラムに掲載させていただけることとなりました。関わってくださってるみなさま本当にありがとうございます^^

僕は、普段野洲市で、絵・カフェ・ヨガ・マルシェ・お米づくりなどを通して、一人でも多くの人の笑顔につながるような暮らしをさせていただいています。

もともと大学生の頃は、好きなことも全然なく、人と比べては落ち込んだり、焦ったり、すごくネガティブな毎日でした。

心の中では、今の世の中に違和感があり、「普通に就職する」というレールにのっかれない自分がありました。けど、好きなことがない。やりたいことがない。でも、なぜかレールにはのれない。

そんな気持ちの中、19歳の頃、高橋歩さんの「アドベンチャーライフ」という本に出会いました。好きなことで生きている人に憧れを抱き、自分もこんな人生がいい!!と直感。まずは興味あることをやってみよう、いろいろやってみました。

それから、3年が経ち、気付いたことがありました。それは、すぐ飽きてしまい、続かな

あまいろだより(天色便り)
あまいろ探偵団、走る！手づくり市民メディア
第26号 特集:三十八男、ギターで語る。
発行日/2016年3月15日
編集/あまいろ探偵団
(綾牧生・岸田知之・北岡七夏・
きむきがん・中野和子・藤井朋子)
発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖
~大切なことを他人任せにしない。
自分たちで力をあわせてつくる~
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
info@aobiwako.org http://aobiwako.shiga-saku.net/

あなとも私もつながろう
今、びわ湖から辺野古へ
碧いHand in Hand プロジェクト

沖繩・辺野古で繰り広げられている米軍基地建設を巡る市民と権力側との攻防戦が今、全国世界へと明るみになりその露骨な権力の横暴に、地球規模で反対運動が広がっている。私達はそこから学び、暮らしをデザインし、想う平和を立ち上げることができるんじゃないだろうか。辺野古の現場から繋がりと私達の政治を考える。

まいど辺野古滞在記 (2015,12/29-2016,1/20) 劇団石(トル) きむきがん

キャンプシュワブゲート前では、昨年11月末から、反対運動の世界的な高まりに焦りを見せた日本政府が沖繩機動隊に加え警視庁本部からもさらに機動隊を投入し、座り込む市民を鎮圧していた。今回の滞在期間中も、基地建設工事の資材を積んだトラックやミキサー車の搬入が頻繁で、そのたびに機動隊による激しい排除を受けた。「法」というのは「皆が気持ちよく暮らすための約束」であるはずなのに、ここでは「国家の管理・抑圧」のためにだけ適用されて、権力の暴力は正当化されていた。機動隊は「制服」をつけ「個人」をしまい、命令に従いこちらの声には一切耳を傾けない。

しかしここに集う人達は諦めていなかった。「1分1秒でもとめない」と私たちの意地を見せないと震えながらトラックの前に立ち、勇気を出して抗議し、歌い踊りながら励ましあい、雨でも寒くても座り込むことをやめない。「危ないですよ」と強引に掴みかかってくるシワひとつない機動隊に「危ないのは何か!なんでこうしているか考える!」と叱る人間深い声は何よりも説得力と愛があった。

それは機動隊にだけではなく基地で働く沖繩の人にも、戦争資材を積むトラックの運転手にも向けられ「その仕事殺人につながるんだぞ」「誇りはないのか」「あの沖繩戦を忘れたか」「今すぐ帰れ。沖繩は殺人を望んでない」とその生き方を問うていた。この鋭く突き刺さる訴えに相手はどん

蜂の牙

ファーストフード店にはいれない!

あまいろだより(天色便り)ではファーストフード店に行くことが「非常」に多いです。友達と遊んだりしたとき、勉強する時、学校行事の準備が済んだときなど...
なので友達「こはちゃん!お昼飯、マクドナルド行くよ、と誘われることが時々あります。そのときは「ダメ!美味しい!」と断ります。理由は「ファーストフードは体に悪いから!」と断ります。

はたさこはる

そのために武器をペンや楽器に変えて、今私たちは学ばなければならない。

きむきがん...しが県民集会の野外劇で脚本、演出を担当。好みのタイプはサントリープレミアムモルツ。

